

## 第6次総合計画策定に係る【西部】地区懇談会 会議録

### 開催日・出席者等

---

開催日時 令和2年7月30日(木) 19時00分から20時30分まで  
場 所 よませふれあいセンター 軽運動室  
出席者 竹節町長、建設水道課長、会計管理者、総務課長、企画係長、企画係員

### 会議事項・懇談内容

---

- 1 開会(建設水道課長)
- 2 挨拶(竹節町長)
- 3 第6次山ノ内町総合計画について(企画係員)

#### 懇 談

- 【発言】 懇談会参加者意見  
【回答】 役場出席者意見

#### 【発言1】

人口を増やすということは、ここで生活ができなければいけないということが基本だと思う。働く場所があるか、ないか、ということ。生活様式が変わっていく中で、観光面では団体がなくなって個人客が増えると旅館・ホテルが必要とする従業員数も減り、働く場所が減ってくる。コロナの関係で国も団体旅行や学習旅行はダメと言っている中で、志賀高原や北志賀高原は学生が動かないとどうなっていくのか。働く場所がさらになくなっていく懸念がある。

私の旅館でも子育て中の奥さんがパートで働いているが、10時から3時まで仕事ができるというシステムがある。観光業でも農業でも、そうやって子育て中の奥さんが働ける場所があれば、少子化問題も少しは解決するのではないかと思う。生活をするための働く場所の充実を一番お願いしたい。

山ノ内町に親戚や友達が来た時に、ほとんどの人は善光寺や小布施など名の知れた観光地を案内する。町内に案内できるところはない。観光地を山ノ内町につくってはどうか。例えば、茨城県の人工芝広場、20~30年前に植えたカワザクラ(川津桜のことか?)とか。町内には観光地がない。中野市のバラ園や小布施の北斎館や街並み、飯山の菜の花まつりのような何万人も集まるものがない。季節物で言えば町内にも地獄谷野猿公苑があるが、ほとんど外国人で日本人のお客さんはいない。

旅館で働けるシステムをつくるには、そういった観光地を考えた方がいいのかなど。働くところがあれば、町外への移住がなくなるのではという気がする。

## 【発言 2】

10年に1回こういう計画を立てて実行していると思うが、10年前の第5次計画と比べて、8ページにある基本目標はほとんど変わっていないのではないかと考えている。10年間やってきた実績、変わったところがこの中には見られなくて、ただただ継続をしているような感じを受けるので、第5次総合計画の10年間で達成できたことがありましたら紹介していただきたいと思います。

もう一点、この資料の材料は昨年のものかと思うが、今年はコロナで状況が一変していて、この町も厳しい財政になっていると思います。コロナが発生すれば農業も影響がないということは、多分ないと思う。昨年の資料で作った総合計画が果たして現状に合っているのかと疑問に思う。まったく変わった世界に入ってしまった中での総合計画というものを、もう一度考え直したほうがいいのではないかと考える。

## 【回答 2】

作成にあたりましては、昨年度から約半年間、第5次総合計画の検証を行っている。基本計画の各項目で評価を実施しているため資料が膨大であり本日はお示ししていないが、町のホームページには全ての評価が載っている。具体的には、係毎に5年間で達成した目標、どのくらいできたか、できたものに対してはそれをどう展開していくか、できなかったものに対してはどのような変更をしていくかという検証を行っている。また、特に達成したものに対しては次にどのような段階に入っていくのかという部分を検証している。

その内容をふまえ、ご指摘いただいた8、9ページ、施策の大綱と呼ばれる部分ですが、基本目標については計画書の中に細かく内容を書いており、例えば産業・交流・移住定住の分野、観光・農業の部分では“ひとがつなぐ”ということで「ひと」にスポットを当てて、日本中どこにでもあるような大きな観光施設などにスポットを当てて誘客するのではなく、たくさんいいところがある山ノ内町の中で、「ひと」であったり「もの」であったり、この土地でしか味わえないもの、その部分をブランド化していきたいという思いがあります。そういった内容は10年前ではまったく触れていなかった部分だと思います。

教育・文化・スポーツの分野では、この10年間で特にユネスコエコパーク、ユネスコスクール、ESDこの部分がだいぶ変わっているので、小・中学生たちに山ノ内町の自然の素晴らしさをどのように伝えていくか、山ノ内町を好きになってもらえるか、この辺りをさらに進めていきたいということで修正しているところです。

都市基盤の部分ですが、特にこの10年の防災の関係があります。自然災害の激甚化であったりとか、そういった部分を対策して強化していきたいということで、特に項目出しをしてこれから実際の事業を考えていきたいと考えている。

## 【回答 2-2】

検証の詳細はホームページでもご確認いただけるので、参考にいただければと思う。本郷区長さんの新たな観光地をつくることも必要ではないかというご意見も検討させていただければと思う。ただ、資料でも説明したが、山ノ内町を訪れる観光客は440万人と

いう数字が出ている。北信市町村の中、例えば野沢温泉村はスキー等でお客さんが来ますが、山ノ内町の4分の1くらいかと思う。中野市はバラの関係では何十万人も訪れているが、年間通すと山ノ内町の10分の1くらい。町内の方から見る山ノ内町の観光地というのは確かにたいしたものがないじゃないかと思える方が多いと思うが、町外・県外の方たちから見たときの山ノ内町というのは、最近ではSORA terraceもあるし、志賀高原も素晴らしい景色がある。スノーモンキーも大変な人気が出ている。これをいかに増やしていくかということかと思う。新たな観光地をつくるというのも1つの視点で必要なことかと思うが、今ある観光地・観光素材を磨き上げていくことも必要だと感じている。

農業の状況ですが、コロナウイルス感染症の関係で、当初作成を進めていた時期と現在を考えると、あらゆる分野でものすごく変わってしまっている。新しい生活様式というのでも出てきているので、今ここで修正することも必要なのかなと感じているが、この冬にはワクチンが出来るという話もございますし、来年オリンピックが開催される予定。このコロナウイルス感染症の終息の時期がいつになるかというところで大きく計画の内容が変わってくるのかなと感じているので、その辺を見据えながら策定をしていくことも必要なかなと思っている。

### 【発言3】

雪が多い、坂が多い、山が多いという山ノ内町の地域性があると思う。農業をやっているから横倉に住んでいるが、もしサラリーマンだったら中野市や須坂市へ出て行っていると思う。中野市に住んでいる息子にも山ノ内町へ帰って来いよと言っているが、山ノ内町は雪が多くて坂が多くて、よっぽど何か魅力がないと帰る気がしないと言われる。中野市は平らだし、雪もそれほど降らないので、山ノ内と比べて、住むには相当いいところだと思う。中野市に匹敵するようになるにはよっぽど魅力的な何かを考えないと、U・Iターンもそうだが、今住んでる若者も子どもを産んでもある程度の年代になると中野市・須坂市・長野市に出てしまって、山ノ内町は年寄りだけになってしまう。何か魅力的な事、例えばU・Iターンすればお金を出すとかを考えれば、出ていった人も戻ってくると思う。近隣の栄村や木島平村なんかも同じ僻地なので人が減っているのではと思うが、他の市町村よりも補助などを上乘せして何か魅力的なものを作る中で、親の負担を減らすようなことをすれば、もっと子どもも産んでもらえるのではないかと思う。そういうようなことを考えていただければと思う。

### 【回答3】

今年の5月の「広報やまのうち」にも補助金一覧を掲載していたり、ホームページなども含めて広報しているが、移住の関係や若者が町内に住むための住宅改修補助など実施しているところ。他市町村より多いか少ないかという単純比較は難しいところもあるが、そういった支援は現在でもしてきているつもりではいる。こういった補助があれば子どもが帰ってくるのではないかというご意見があれば参考にさせていただきたいと思っている。広く色々な部分へ補助を出しながらやっているが、住民周知の仕方、広報が悪いというお話も他の懇談会でご意見をいただいているので、広く皆さんに分かりやすく、さらに町外

の方へも伝わるような広報を考えていきたい。またご指摘いただければ有難い。

**【回答 3－2】**

町内の皆さんに町の宣伝ができていないと意見をいただいております、まず町内の方が山ノ内町っていいよねと思ってもらわないといけないのではないかと考えている。例えば子どもを保育園に通わせると全国一律で保育料が無料になったかと思うが、給食代は無料ではない市町村もあります。しかし、山ノ内町は給食代も無料です。それは町の財源を使って補填しています。そういうものがみなさんに伝わると、山ノ内って子どもも育てやすくいいねって思ってもらえるのではと思っています。そういう住民向けの宣伝がすごく下手だなというふうに他の会場で言われているところで、皆さまからご意見をいただく中で痛感しているところ。その辺りを計画に入れて、皆さんに町のいいところを知っていただき、それぞれが山ノ内町の宣伝マンになっていただきたいというのが私の思っているところ。

**【発言 4】**

観光・レジャーと並行して企業誘致は考えていないか。何年か前に YKK の東京本社を黒部市へ移すという話があり、そうすると 100 万人(?) が黒部市に移るという話を聞いた。観光・レジャーや農業に関しては色々な自然に恵まれている中で、そういった安定した企業の誘致をすれば若い人もそこで働けるのではないかと思うので、そういった方面も考えていただければと思う。

**【回答 4】**

30 年ほど前に山ノ内町も企業誘致に取り組んだ経過がある。当時は中野市に高速道路が通るとい話がある中で、企業から山ノ内町の土地が安ければ工場を造ってもいいよという話があり、山ノ内町と中野市の土地の価格を調査したことがある。土地の平米あたりの単価は中野市と比べると山ノ内町の方が安い、山ノ内町はほとんどが傾斜地ということで、平らに造成するための費用を考えると中野市が圧倒的に安いということや、IC も中野市の方が近いということで、企業のメリットを考えると山ノ内町は適さないという経過があった。

ただ、現在の状況を見ると、遊休荒廃農地がかなり増えてきている状況にあって、土地の活用方法として工場用地の造成をしてその土地を企業に提供していくことは、考え方としては必要な部分だと考えている。ご意見を参考にさせていただいて、計画に組み込めるかどうか検討させていただきたいと思う。

**【回答 4－2】**

工場を誘致するのは地形的に制約があるが、最近のコロナの影響で、東京の企業がテレワークやワーケーションをやりましょうということで、大企業の 4 割くらいがテレワークを推進し始めている。コロナの逆風をチャンスと捉えて、観光地にリゾートを楽しみながら仕事もできる環境を整えて、ワーケーションというテレワークの推進を町では考えている。

**【発言 5】**

7 ページのまちづくりの課題のところ、「若者にとって住みたい、住みたいと感じるまちづくり」ということだが、これは町外の若者か町内の若者か。

**【回答 5】**

イメージにあるのは、まず町内出身の若者にとって住んでみたい・住みたいと思うまちづくりという部分。山ノ内なんか嫌だと言って中野市に出て行った人に、山ノ内町がいい、住みたいと言ってもらえるイメージ。

課題の中で、保育園から中学生の子どもに山ノ内町のいいところを学校や家庭で感じてもらって、山ノ内町に住んでいこうと思っていただけたらいいなという思いもある。

**【発言 5-2】**

私も東京に出ていて、実家があるので町に戻ってきた。ほんとうに山ノ内はいいところだなと思っているが、いきなり定住人口を増やすというのはハードルが高いと思う。私のように実家が山ノ内にあるという状況であれば、帰ってこようかなという気にもなるが。そんな中で、先ほどワーケーションの話もあったが、関係人口を増やしていけるような施策があるとよいと思っている。このコロナ禍で、東京で働いている人たちが町に来て、働きながら長期間滞在して、山ノ内の魅力を知って東京に戻って、町に興味を持ってまた来てもらうという仕組みができるといいかなと。若者は SNS とかで情報を拡散していく世代なので、IT 化も若い世代にとってすごく必要な施策かなと思った。

**【回答 5-2】**

ご意見のとおり、移住定住というのはすごくハードルが高くて、関係人口や交流人口と呼ばれる方の終着地になると考えている。移住定住に行き着くまでの関係人口という部分で、現行の山ノ内のイベントでも、古代桜まつりとかそばの花まつりなどは、リピーターの方が結構いらっしゃると聞いている。そういった方々が非常にローカルな関係人口であると捉えるとともに、テレワークの部分が非常に充実してくると、体験して都会に戻って山ノ内町よかったなという部分が蓄積した結果、住んでしまおうというところに繋げていければと考えている。9 ページの基本施策の「ひとをつなげる交流の郷土づくり」という部分で示していきたいと考えており、10 年前にはまったく考えていなかった部分です。関係のある市町村同士で交流していこうという限られたものから、関係人口や移住定住の方向に特化して考えていこうということで、「交流の郷土づくり」の部分に項目出しして考えていきたいと思っている。

**【回答 5-2-2】**

ふるさと納税も関係人口のひとつではないかなと考えている。市川海老蔵さんの植樹イベント『ABMORI』にリピーターで来ていただく方はイベントのお手伝いもやっていただいたり、寄付をしていただいたりすることもあるので、これも関係人口なのかなと思っている。

る。定住はハードルが高いというのはご意見の通りかと思うが、先ほど黒鳥からも回答があったとおり、「おらほうの町には何にもねえやさ」という方が現状多い中で、住んでいる人からすると当たり前の景色が、総務課長からあったとおり、本町は県内でも有数の観光地でありますから、都会の人にとってはものすごく魅力を感じる地域であるということなので、住民に山ノ内のファンになっていただく、今住んでいる子どもたちが、こんな素敵な所に住んでいるんだなと思って育って行って、たとえ東京で就職しても、ふるさとを愛する気持ちを持ってもらえれば、何か町のためになることに力を出してみようかと思ってもらえるのではと考えている。郷土愛を醸成するような取り組みを今後10年で進めていきたいというのが『未来に羽ばたく 夢と希望のある 健康な郷土』というスローガンで考えているところ。なかなか住民の考えや子どもたちの意識を変えていくのは難しい部分ではあるが、将来像の中へ織り込んで、たとえ町を離れても愛する町のために何かできないかと考えてもらえるようなことを計画の中に落とし込んでいきたいと考えている。

#### 【発言6】

現在西小学校には137名の児童が在籍している。今子どもたちにつけるべき力は何かなと考えたときに、ただ単に学力をつけるということ以外に、町の良さ、どんな特性を持っているかということを楽しむながら、それがESDに繋がっていくと思うが、それが将来に渡って山ノ内に誇りをもてる、それから山ノ内を発信しながらいつか戻ってこようという気持ちをもつ子どもに育つように、どんな風に子供たちの学びに関わっていけばいいかと思っている。

もうひとつはGIGAスクールという構想があるのですが、そういうことも大事な事かなと思っている。今はコロナの影響でいつ学校が休校になってしまうか心配だが、子どもたちに学ぶツールを与えるとすごく吸収が早い。将来テレワークでそういう能力を持った子どもが町へ定着しながらいろんな企業と繋がっていくことができることもメインになるのかなと思っている。そういったことを踏まえ、町の施策を大事に受け止めながら子どもたちと進めていければと思う。

#### 【回答6】

企画係で今回の計画を作らせていただいているが、地域力創造アドバイザーという方を委託させていただき、移住定住を含めたまちづくりの研究をはじめています。その中で、関係人口を作ることと、地域の子どもたちが地域外へ出たところを地域に戻すという2つ方法で、各市町村研究しているようだ。地元から出ていった子供を地元と呼ぶというのはかなりハードルが高いという意見をもらっている。その中で一番大事なのは、小さいときから地元の皆さんと関係を持つことだと言われている。地域の祭りに関わっていくとか、小さいときから地元の子どもたちが地元の良さを味わうような活動をするとかを積みあげていくと、その子たちが町外出たときに帰ってくることはあるけれども、そういった体験なしに急に呼び込むのは難しいといわれています。小さいときから地域の関りを持たせたり、いろんな意見を聞いたり、発信してあげたりというのを積み上げていけば、いずれ可能性は高いのかなと感じているところ。

## 【回答6-2】

小学校では山ノ内っていいところだよねという方針のお話をお聞きできたが、お子さんの社会は狭く、最小の単位は家、家庭だと思います。学校で山ノ内の素晴らしさを学んでいる中で、ご家族の中でも山ノ内っていいところだよねということをお伝え感じさせてあげることが、町に戻ってきてお祭りやりたいとか、山に行きたいとか、そういった思いに繋がると考えています。最小の単位であり頼れる大人のおうちの方が、そういうものを伝えてほしいという思いがあります。まちづくりの課題に記載の内容は、お子さんの最小の単位である皆さんから意識を変えていただき、子どもたちが山ノ内町を好きになってほしいという思いがあることをご理解いただきたい。

## 【懇談会后、追加発言】

話が長くなり一番言いたかった部分が伝わっていない気がしたので、言わせていただく。観光地だから観光を充実することによって、働く場が生まれると思っている。観光を良くしないとみんな生活できない。うちの息子は職場が長野だから長野に住んでいる。長野であれば嫁も働く場がいくらでもあって、パートにも困らない。皆さんは職場が役場だから町にいるかもしれないが、職場が町外なら、町外に出て行ってしまおうと思うが。

環境がいいなんていうのは、本音と建前で、現実とは合わない。水がいいとか空気がいいとか野菜がいいなんて言っても、野菜なんて買えばいい。キノコがいいなんて言ったら、町にいないたってスーパーで買える。

移住定住に関しても、水がいい空気がいいでは生きていけない。環境がいいからっていうのは建前で、色んな理屈ならべて、きれいな事言っても、働く場所がなくちゃ絶対無理。金がなきゃ生活できないし住み続けられない。山ノ内町も、ここで生活できる環境を作らないといけない。生活できる場所を確保するのが一番、そこから保育園を安くするとかの付属する特典の意味が生まれてくると思う。

町は現実を考えて、働くところを一番に考えてほしいと意見させていただく。

観光地の提案だが、平和観音に千本の桜を植樹してはどうか。桜はネットでオーナーを募り、記念樹として育てる。オーナー制であれば植えた方は毎年来てくれるし、見に来る一般のお客も毎年来るはず。そういった事業も考えていただきたい。

## 4 その他

SUGUメール登録のお願い（総務課長）

▶ 質疑等特になし

## 5 閉会（建設水道課長）

以上